

1 研究主題

子どもたちの命を守り、安全に生活できる学校を目指して
 — 「これならできる！やってよかった！」と実感できる取組を通して —

2 はじめに

本研究会では、令和元年度までの研究において、『子ども』『教職員』『養護教諭』の救急処置における課題を探るために、実態調査の実施・分析を行ってきた。昨年度は学習会の実施や救急処置についての情報交換会を行うなど、『養護教諭』の知識・技能を高める実践を予定していたものの、新型コロナウイルス感染予防のため、研修会の実施が困難となった。そこで、校務支援ネットワークを活用して、救急処置の事例を集めて共有し、事例について意見交流を行った。自分の救急処置を客観的に振り返ることで、改善点や組織としての危機管理について考えることができた。また、養護教諭同士のつながりが深まった。

今年度も相変わらずコロナ禍が続いており、研修会の実施が難しい状況にある。そこで、昨年度と同じく校務支援ネットワーク上での事例紹介・意見交流を続けることで救急処置の力量向上を図りつつ、集まった事例をデータベース化することで、いつでも多種多様な事例に触れることできる環境作りを進めることにした。

3 研究経過

(1) 研究の仮説

事例紹介シートと意見交流シートを使って、救急処置に関する事例を紹介する機会をもち、「これならできる」「やってよかった」と感じた点を共有し学び合うことで、養護教諭の救急処置に関する判断力や対応力が高まるであろう。

(2) 研究の計画

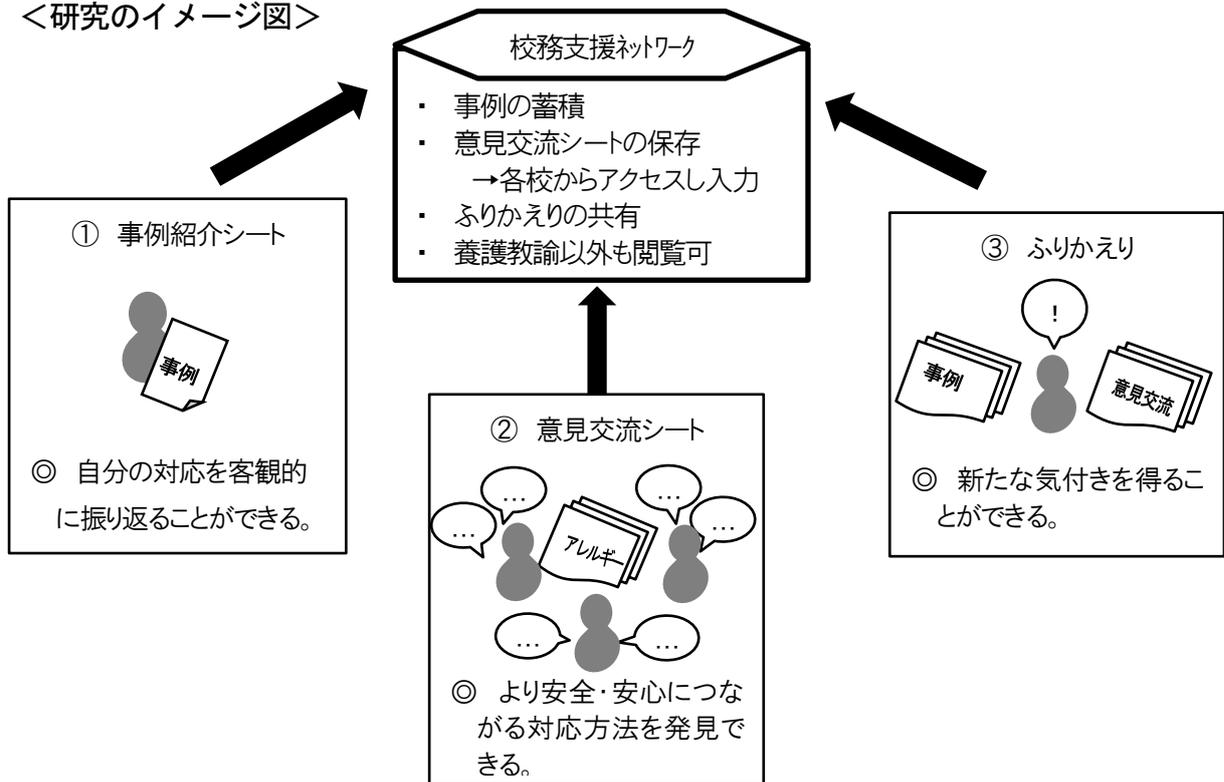
	実践内容	手だて	評価
令和元年度	学校における救急処置の課題の再検討	実態調査の実施、分析、過去の結果との比較	調査分析による取組内容の明確化、部員による評価（感想）
令和2年度	実践の紹介 課題と解決方法の共有	事例紹介シート 意見交流シート	
令和3年度	実践、実践のふりかえり 研究のまとめ	事例紹介・意見交流 事例のデータベース化	

4 研究の概要

事例のテーマを「救急車を要請した・しよつか迷った救急処置事例」とし、各校の養護教諭が経験した事例を「事例紹介シート」に記入した後、校務支援ネットワーク上の

共有フォルダに提出した。外科では骨折、頭部打撲、出血を伴う外傷について、内科では食物アレルギーや熱中症、意識消失についてなど、多様な事例が集まった。事例の内容を基に3～4名のグループを編成し、意見交流を行った。意見交流では、グループごとの「意見交流シート」に、その事例に対する感想や意見を各自が記入し、集まったコメントからさらに学びを深めた。その後、昨年度と今年度の2年間で集まった事例を校務支援ネットワーク上でデータベース化し、エクセルシートでキーワード検索できるよう整備した。

<研究のイメージ図>



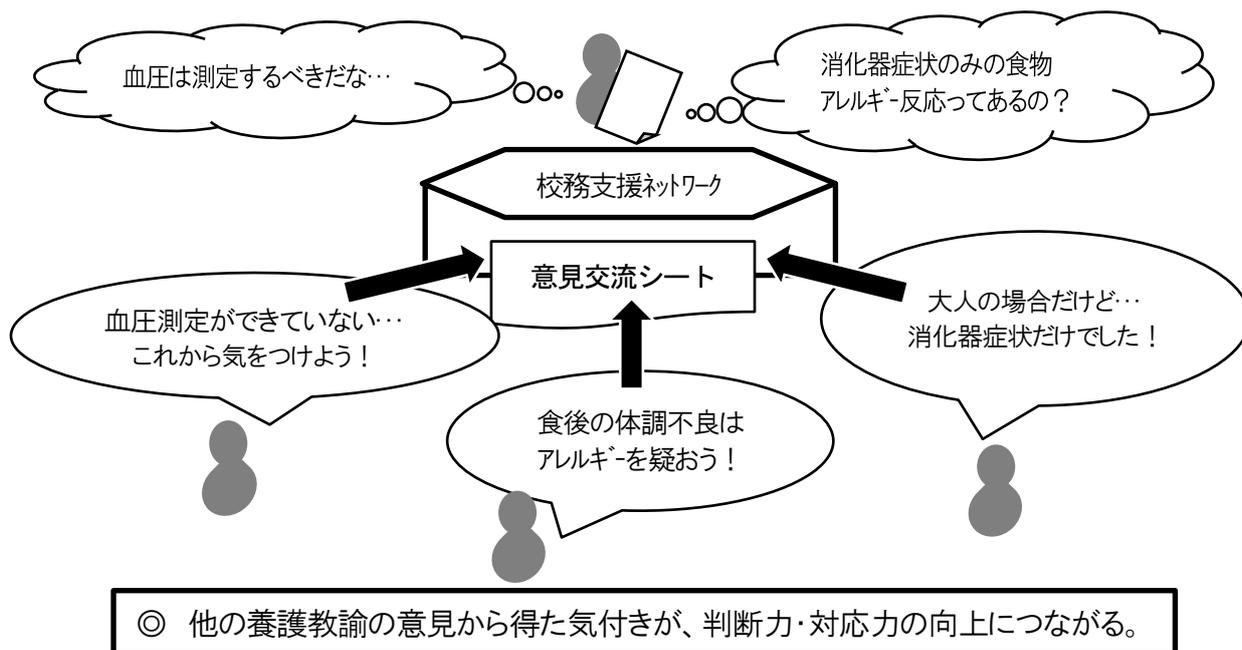
(1) 「事例紹介シート」への取組

症状や経過等の情報からどのような判断をして、どのような処置に至ったのかを振り返ることができるシートを作成した【資料1】。救急処置の事実だけではなく、校内の連絡体制や教職員の連携等を振り返ることができるよう、養護教諭から教職員にどのように働きかけ、連絡をしたか記入する欄を設けた。また、自分の対応を振り返って、「これならできる」「やってよかった」点を記入するようにした。

(2) 「意見交流シート」への取組

経験年数の偏りがないようにグループを編成した。グループ内の事例に対して、各自「これならできる」と学んだところや改善点、困り感についての助言などを書き込み交流した。多様な視点から事例を見直し、助言し合うことで、養護教諭の疑問点や困り感の解決と救急処置のスキルアップを図った【資料2】。また、校内の救急体制の見直しや危機管理の改善につながる気づきを得ることで、リスクを軽減する工夫やミスを防ぐ工夫、いざという時に慌てず冷静に対応するための工夫などを共有した。

<意見交流のイメージ図>



<養護教諭の気づきの例>

事例1		事例2
頭部を強く打ち、心配な状況での保健室休養時間に迷う。また、バイタルサインの確認について知りたい。	事例を振り返って	本人が「落ち着いたから教室へ戻りたい」と訴えたため、まだふらつく様子があったにも関わらず教室へ戻ってしまった。その後、再度過呼吸症状が出たため、経過観察が必要だった。
保健室での経過観察時間は1時間という意見が参考になった。視力・聴力の確認だけでなく、軽度であっても血圧測定も行うよう心がけたい。	↓ 意見交流を通して	過呼吸症状の時、子どもは体力をかなり消耗していることを教えてもらった。他の養護教諭から「早く教室に戻そうと焦ると症状が長引くこともあるため、十分な休養を心がけている」と聞き、見習いたいと思った。つい子どもの言葉を信じてしまいがちだが、気を付けたい。

危機管理の改善につながった気づき
<ul style="list-style-type: none"> ○ 他校では、救急車の到着で子どもたちを動揺させないために、教室のカーテンを閉めさせる指示をしていた。自校ならば、廊下から見える場所に救急車が入ってくるので、廊下に出ない指示を出すことができると気付いた。 ○ けがの発生場所の写真を撮り、病院受診時の説明に役立てていた。また、再発防止の観点からも、写真があれば学校全体で危機管理が必要な場所を共有できる。 ○ 夏休みの部活動用健康観察表に、朝食摂取状況を確認する項目を取り入れ、熱中症予防に努めたい。 ○ 担架は保健室だけでなく、保健室から遠い場所にも設置し、周知しておきたい。 ○ 担任以外の教員でもすぐ分かるように、食物アレルギーの対象者の献立表を全ての教室の同じ場所に掲示するとよいことが分かった。

(3) 各校での活用

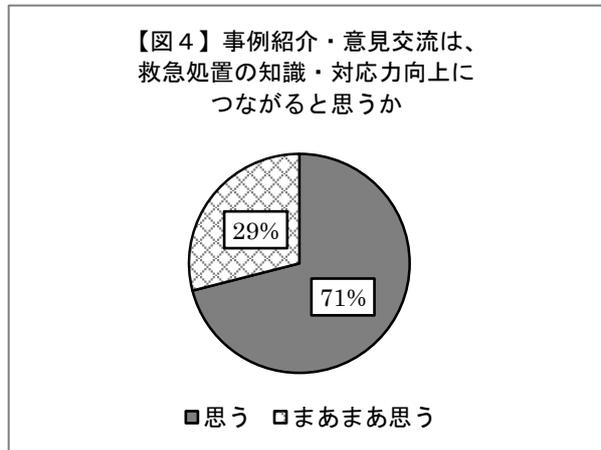
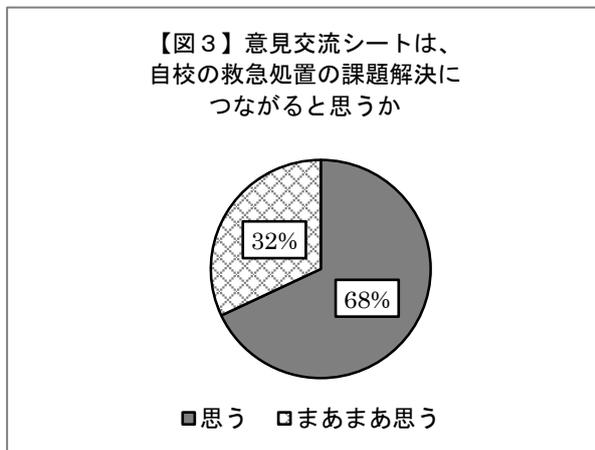
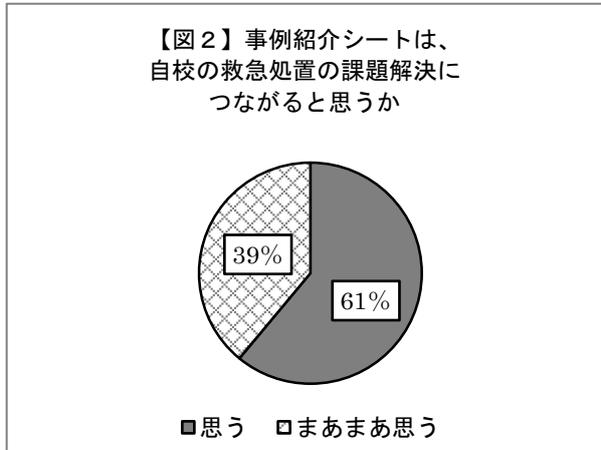
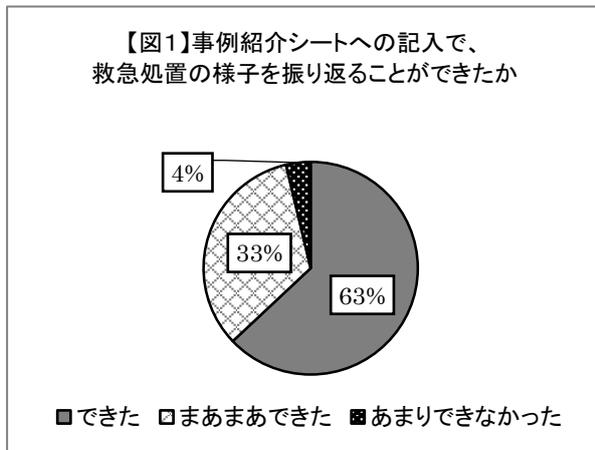
A中学校では、「事例紹介シート」で紹介された食物アレルギーの事例をアレンジして、エピペンシミュレーション研修を行った。シミュレーション後、「事例紹介シート」を参加者に紹介して市内の学校で実際に起こった事例であることを伝えたところ、「いっどこで同じようなことが起こってもおかしくない」という職員の危機意識を高めることにつながった。また、どの学校でも少経験者が占める割合が増加している中、それらの教員が司令塔や発見者役を務めたことで、疑似体験ではあるが経験蓄積にもつながったと考える。

B小学校では、固定電話からの救急車要請よりも現場から連絡できる携帯電話での救急車要請の方がよいということを知り、エピペンシミュレーション研修に取り入れた。研修後には、救急車を要請する時に連絡ミスが起きないように、教室から職員室への連絡事項を示したカードを全ての教室のインターホンに吊るした。他校の救急体制について事例を通して知ることによって、自校の救急体制を客観的に振り返ることができ、改善点を明らかにすることができた。



(4) 成果

ふりかえりの結果は、以下の【図1】～【図4】の通りである。いずれも、90%以上の養護教諭が「できた」「まあまあできた」・「思う」「まあまあ思う」と回答した。



<ふりかえりの記述から>

- 自分が経験したことの無い事例とその対応を学ぶことができ、勉強になった。
- 自分の視点から事例を振り返るだけでなく、違う視点から事例を振り返ることができ、自分の対応・組織の対応について考えることができた。
- 同じような事例でも、他校の対応の工夫を知ることで自校の足りないところを改善するためのヒントになった。
- 記録をとることの大切さを再確認した。
- 記録や災害現場の写真撮影など、慌てると忘れがちなことを再認識した。
- 食物アレルギーの初発も疑い、重要な症状を見逃さないように気を付けたい。
- 経験が少なく食物アレルギーの対応に不安があり、助言をもらえて勉強になった。
- 顔面を打った場合でも、目や歯、顎関節、頸部の確認を怠らないようにしたい。
- 他の養護教諭と集まり情報交換する機会が減った中、データ上での交流ではあったが、養護教諭同士のつながりを感じることができてよかった。

ふりかえりには、多くの養護教諭が救急処置について新たな気付きを得ることができた様子が表れていた。このことから、養護教諭自身の救急処置に関する判断力や対応力が向上したと考える。ワークシートを使った事例共有と意見交流を行うことで、自校はもちろん、市内全体の救急処置の課題解決や経験の蓄積につながり、養護教諭が救急処置への自信を深めることができた。各校での救急処置に関する工夫点を共有することで、いざという時に冷静に対応するための準備や救急体制の充実につながった。そして、市内の事例を校内研修で活用することで、養護教諭の取組を通して学校全体で安全について考えることができた。会合での情報交換が難しい状況であっても校務支援ネットワークを活用することで、個々の養護教諭のつながりを深め、学ぶ機会をもつことができた。

4 今後の課題

養護教諭同士の意見交流の方法について、「他のグループのメンバーとも意見を交流できると、よりよい学びになるのではないか」「事例に対し、専門家の意見が聞けるとよいのでは」などの意見があった。今後の活動に取り入れていきたい。

また、「次年度以降も事例を蓄積していくとともに、事故が起きた際に、すぐに情報共有ができる仕組みができるとよい」との意見もあった。校務支援ネットワーク上に蓄積した事例を、ただ蓄積するだけでなく、救急処置の場面で困った時や現職教育の資料として、必要な時にすぐに確認できることが大切だと考える。現在、エクセルシートで検索性目次を作成し、フィルター機能を使ってキーワード検索できるよう整備している【資料3】。今後はさらに共有事例を増やし、データベース化を進めていきたい。

加えて、地域の医療機関に関することや救急処置の場面での工夫点・エピソード・エピソード研修についてなど、情報交換の場を広げていくことや、講師を招いた学習会などを実施することで、救急処置に関する養護教諭の力量向上を目指し、子どもたちの安全を守ることにつなげたい。

【資料1】 事例紹介シート

* 事例紹介シート(内科) * () 学校 名前()

1 テーマ 給食を食べた後、腹痛を訴え嘔吐した小1女子(A)の対応について

2 事故発生状況と養護教諭への通報
 (1) 事故発生状況について
 清掃終了後、担任に連れられて保健室に入室した。
 (2) 養護教諭への通報について
 担任が連れてきて、状況説明を受けた。

3 対応の手順と内容
 13:30 担任に連れられて保健室に入室。
 ○ 問診を実施 症状：腹痛 体温：37.0℃ 脈拍：規則的 顔色：いつも通り
 給食：完食 便通：排便なし、前日夜に排便あり
 ○ 対応 水分補給とトイレに行くこと、昼放課は教室にいるよう指示
 14:40 腹痛があるため児童クラブに行かせられず、保護者に連絡し、保健室で待たせることにした。ベッドで休養するが、ずっと元気におしゃべりしている。
 15:30 「トイレに行ってくる」と言って起き上がり歩き始めたところ、保健室の床に嘔吐した。
 15:50 保護者の迎えで帰宅
 この日の給食にカシューナッツが提供された。Aに食物アレルギーはないため、完食した。後日家庭でカシューナッツの入ったお菓子を食べたところ嘔吐したとのことで、保護者は本人の気持ちの問題かカシューナッツのアレルギ-を疑っている。その後、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、受診を控えているためまだ検査はしていない。

4 養護教諭からの働きかけ・連絡(いつ、誰が、誰に、どのように、…連絡したかわかるように記述する)
 担任
 ・ 迎えを待つ間、定期的に様子をみるよう依頼。
 管理職
 ・ 経過報告をした。
 師接職員
 ・ 保健室の床に嘔吐したため、嘔吐処理とAの着替えの補助を依頼。

5 「これならできる！」「やってよかった！」こと、対応に困った点にどのように対応したか、今後改善したいことや身につけたいこと、疑問点、共有・紹介したいこと など
 「これならできる！」
 ・ アレルゲンになりやすい食材が提供された後は、食物アレルギーによる反応を疑って対応する。
 ・ 体調不良者に対応する時は、血圧を測定する(元気にしゃべっている＝血圧低下はないと思っ
 測定しなかった)。
 「やってよかった！」
 ・ 感染症を疑って嘔吐処理にあたってもらった。
 ・ 後日保護者と話す機会があったので、アレルギーかもしれないシトラウマかもかもしれない、落ち着いたら検査できるというですね、という話をすることができた。
 その他
 ・ 食物アレルギーで、皮膚症状がなく消化器症状のみということはあるのか。嘔吐してスッキリ元気になることはあるのか。

【資料2】 【資料1】 の事例の意見交流シート

学校保健教育研究会

* 意見交流シート(食物アレルギー) *

* 事例紹介シートを読んで、意見交流してください(文末に記入者名を入れてください) *

○○小 △△先生の事例について
 ① 「これならできる！」と思ったところ、学んだところ、活用したいところ
 ・ 事例の児童が1年生であることから、学校の給食時にアレルギーの初発になる恐れがあることを視野に入れて行動をすることの大切さを痛感しました。所見としてみられる症状が消化器症状のみで、元気な様子を見ていたら、自身であつたら見逃してしまつていたかもしれません。(◇◇)
 ・ 血圧測定について、本校では時々しか測定していませんが、明らかに症状がある児童のみ測定をしています。今回の事例から、よりきめ細やかな対応をするために、血圧測定をとり入れるよう努めたいです。(□□)
 ・ 毎日の保健室対応の中で、1つの症状での入室で食物アレルギーを疑うのは難しいですが、気をぬかず、給食後の入室は食物アレルギーを疑って対応することが重要だと思います。(◎◎)
 ・ 血圧は自分もなかなか測定できていないのが現状です。どんなときもバイタルサインを確認することを中心にしていきたいです。(◎◎)
 ② 疑問点や困った点の解決に向けて(こうしてみたら?、自分ならこうしてみ、等)
 ・ 自分の話ですが、自分は食物アレルギーがたどるときに症状は、腹痛・嘔吐のみで一切皮膚症状はでなかつたです。嘔吐は何回か続きました。(大人になつてからの話で、子どもだとまだ違うかもしれませんが…)。(◎◎)

【資料3】 事例検索エクセルシート

検索の使い方

多くの事例の中から、見たい情報を検索できます。

食物アレルギーで、救急車を要請した事例について、知りたい。

1 「目次」のシートを開く。
 2 「事例テーマ」の▼マークをクリックして、「食物アレルギー」を選択する。
 3 「救急車要請の有無」の▼マークをクリックして、「有」を選択する。
 4 該当する事例が表示される。
 5 「事例No」の「事例紹介シート」をフォルダから選択する。

事例No	校種	科	事例テーマ	救急車要請の有無	入院の有無	概要
1	小学校	内科	食物アレルギー	有	無	急病後の呼吸器急送
2	小学校	内科	アレルギー	有	無	突然の発作(初発)
3	中学校	内科	食物アレルギー	有	無	調理室で
4	小学校	外科	食物アレルギー	有	無	嘔吐、腹痛
5	小学校	内科	貧血と頭部打撲	有	無	嘔吐、運動会練習中倒れた
6	小学校	外科	頭部打撲	有	無	列入・不注意・登壇
7	小学校	内科	腹痛と嘔吐	有	無	頭部一階廊下で倒れた